



# チャレンジ

柿岡小学校だより

令和3年7月2日発行

第5号

学校教育目標 「主体的に学び たくましく生きる 心豊かな児童の育成」

## 茨城新聞に掲載されました！

4年生が実施しているふるさと学習（総合的な学習の時間）の様子が昨日付の茨城新聞に掲載されました。

2021年(令和3年)6月29日 火曜日

### 地域の今昔探る

#### 石岡小 江戸時代の絵図で授業

「昔の柿岡ってこんなだったんだ」。石岡市立柿岡小（同市柿岡、児童182人）で、300年近く前の今ある学校周辺の様子を描いた江戸時代の絵図をみんなで見る授業が行われた。受けたのは4年生20人。自分の家を描いた紙片を持ち寄り、絵図の上に置いてみて、地域の移り変わりに思いをはせた。

#### 自宅の位置に目印置く

授業は、同市が独自に小に1888年（明治20年）に中学校に設けている「ふるさと学習」（年5時間）の一環。体育館に2種類の「柿岡村の絵図」が広げられた。どちらも写し（複製）で、一つは江戸中期の絵図を基に、一つは江戸中期の1724（享保9）年に描かれたものが原本だ。絵図の活用は飯塚信久校長（59）の発案。「江戸時代の柿岡村の絵図を、ある郷土史家の方が正確に写し取った地図があることを前任校時代に知った。柿岡小に赴任し、ふるさと学習に使えるのではないかと考えた」という。

「明治20年の絵図」は縦116センチ、横134センチ。江戸中期の村の様子を伝えるのに加えて、戦国時代の様子も想像を重ね合わせ、現在の柿岡小がある場所には「柿岡城」が記されている。一方、享保9年の絵図は縦100センチ、横220センチ。柿岡小のある場所は「陣屋」（役所）だった。児童たちは、絵図を見ながら、自分の家が今ある場所（写し）の中に、児童たちが自宅のある場所を探してマークした様子

所を見つけ、紙片を置いていった。見つけあぐねている児童には、担任の教諭が、今も変わらずにある神社やお寺を「目印」にして「アドバイス。すると」分かった。「やっぱり私の家がある場所がない」といった声が続いてきた。

授業を終えた児童からは「昔は家より畑の方が多かった」「八幡神社はずっとあったことが分かった」という感想があった。同校でふるさと学習を担当する小林正文教諭（59）は「まずは自分の地元に関心を持ってほしい。今度は、自分の地区にある神社とかお寺、身近な所を調べてもらうこと」にしている。そのとっかかりになったのでは」と話した。（佐川友一）

江戸時代の絵図を基に、戦国時代にあった柿岡城の様子を加えて明治時代に作られた絵図の複製を見る柿岡小の4年生＝石岡市柿岡



## フリー参観を実施しました

6月29日（火）～30日（水）の2日間にわたって、フリー参観日を実施させていただきました。お忙しい中たくさんの保護者の方に来校いただきました。コロナ禍ではありますができる限りこのような機会を今後も設けていきたいと思えます。ありがとうございました。